

ひがしんを知っていただくガイドブック
~ひがしんのブランドカ~

ひがしんを知っていただくガイドブック Vol.2
平成 25 年 9 月発行

 **東京東信用金庫**
<http://www.higashin.co.jp>

本店：東京都墨田区東向島 2-36-10
Tel:03-3611-0131 (代)

本部：東京都墨田区両国 4-35-9
Tel:03-5610-1111 (代)



深海探査ロボット江戸っ子1号

表紙イラスト：海洋研究開発機構

あたたかく一人へ・街へ
 **ひがしん**
東京東信用金庫

概要

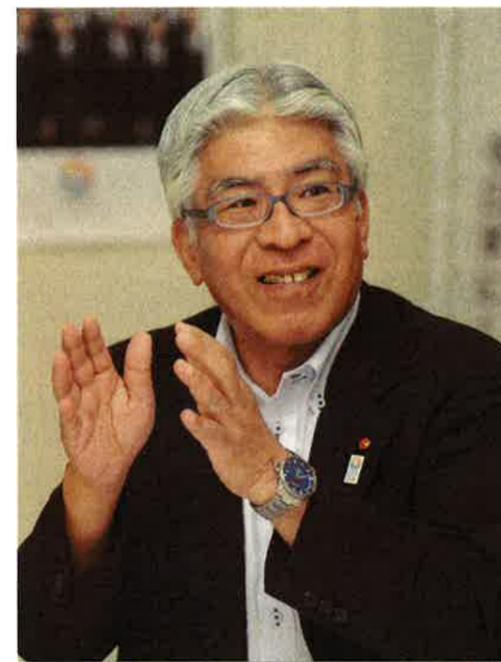
(平成 25 年 3 月末現在)

- 【名称】 東京東信用金庫
- 【所在地】 (本店) 東京都墨田区東向島 2 - 36 - 10
電話 03 (3611) 0131 (代)
- (本部) 東京都墨田区両国 4 - 35 - 9
電話 03 (5610) 1111 (代)
- 【設立】 昭和 20 年 12 月 15 日
- 【会員数】 133,875 人
- 【出資金】 25,968 百万円
- 【預金積金】 1,570,550 百万円
- 【貸出金】 886,008 百万円
- 【職員数】 1,488 人
- 【店舗数】 68 店舗 12 出張所

ひがしん本部・両国支店

ひがしんハロープラザ

理事長あいさつ



理事長 澁谷 哲一

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私が理事長就任にあたり、経営方針として掲げた「4つの経営課題 (Business Challenge)」と、ひがしのビジネスモデルである「オーダービジネスの実践」と「ひがしんコミュニティの創造」に対する取り組みについてご報告させていただきます。

この誌面を通し、「ひがしん」が何に取り組み、何を目指して活動しているかを知っていただき、これまで以上にお客様から頼られ愛される金庫にしていきたいと考えております。

今後も協同組織金融機関の使命を果たすため、お客様第一の姿勢で持続可能な地域経済と明るい地域社会づくりを目指すとともに、中小企業の発展とお客様の幸せのお手伝いに全力を傾注してまいります。

今後ともみなさまのご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

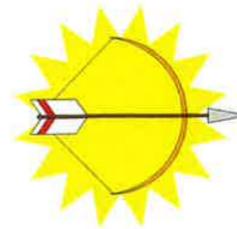
平成 25 年 9 月

ひがしんの4本のBusiness Challenge

4本の矢が決め手!



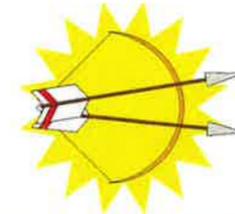
収益力の強化



収益力の強化による金庫の
経営基盤の強化

- 地域密着型金融の実践による非価格競争力強化
- 先数の増加による融資基盤の強化と融資量の拡大
- 総代会・4つの会の組織拡大による取引基盤の拡充
- 収益源の多角化（役務収益等の増加）
- リスク管理に留意した余資運用力の強化
- 自己資本の強化

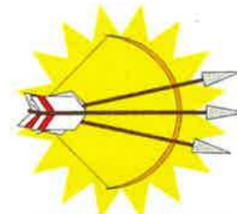
不良債権比率の改善



不良債権の本部集中と経営改善
支援活動の取り組み強化

- 不良債権プロジェクトチームの体制強化
- 破綻先・実質破綻先を本部へ移管集中
- 「有担保債権」のサービサーへの売却促進
- 債権管理システムの定着化促進
- 取引先の本業支援強化とランクアップへの支援強化
- ローンレビューの徹底による不良債権の発生防止

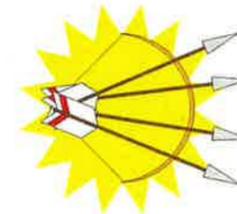
事業の選択と集中



お客様の課題解決と
営業店サポート体制の強化

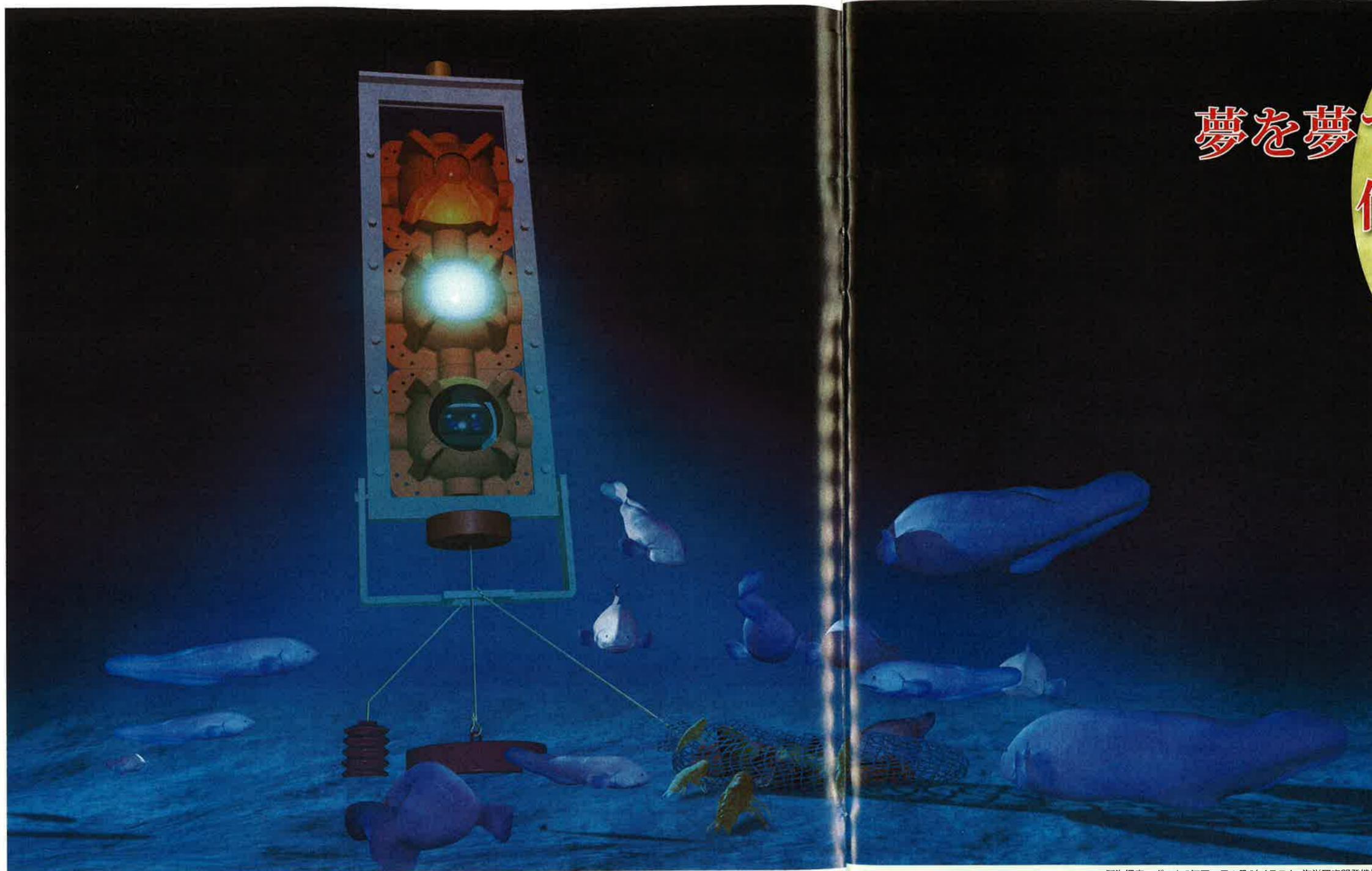
- 新営業体制の定着化による重層管理の徹底
- 融資推進と年金推進による経営基盤強化
- 投資仕分委員会による投資計画の選択と集中
- コンサルタント活用による経費の削減
- 営業店主導型経営と本部による営業店サポート強化
- 営業店事務の本部集中の推進
- 店舗戦略の見直しによる経営効率の向上
- ディスクローズの充実
- CSRの推進と利用者利便性の向上

人材の育成と活用



人員配置の見直しによる営業推進
部門の強化と職員のスキルアップ

- ダイバーシティ推進による職員能力とモラル向上
- コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化
- 顧客感動満足度向上にむけた現場力の強化
- 人材育成プログラムに基づく職員教育の実施
- 高経験職員の活用による組織の活性化
- ワークライフバランスの推進
- 人事制度と評価制度の見直し
- リスク管理態勢の充実
- BCPの確保



夢を夢で終わらせない
信用金庫に

深海探査ロボット「江戸っ子1号」(イラスト:海洋研究開発機構)

夢は子どもだけが持つものでは
ありません。
中小企業といえども、描いた夢は、
とてつもなく大きくて、そして深いものでした。
ひがしんは、そんな夢を
夢で終わらせない、お手伝いをしています。



安倍総理が江戸っ子1号の展示ブースを視察（東京・霞が関、平成25年6月）



関東財務局 平成24年度地域密着型金融に関する取組み

当金庫が顕彰を受賞

写真左が関東財務局原田理財部長

関東財務局から『平成24年度地域密着型金融に関する取組みへの顕彰式』が4月9日、東京東信用金庫両国本部で行われ、財務省関東財務局の原田要暢理財部長から澁谷理事長に「地域密着型金融顕彰状」が授与されました。当金庫が受賞した理由は「組織として産学官連携を継続的に推進しており、多様な機関との連携やプロジェクトのコーディネートなどを積極的に取組んでいる」ことを高く評価されたものです。平成17年10月に国立大学と信用金庫では全国初となる東京海洋大学との産学連携協定の締結以来、芝浦工業大学や千葉商科大学との連携も順次締結し、中小企業の課題を大学に繋ぐ取組みを積極的に行ってきました。また、地域との連携では、墨田区など自治体と地域企業そして大学との産学官連携の組織化に積極的な役割を演じました。具体事例としてマスコミでも報道され注目を集めている商業深海探査機《江戸っ子1号》の事務局を担うとともに、次世代小型自動車の開発プロジェクトでは電気自動車《HOKUSAI》の開発に参加し東京下町の町工場と大学や研究開発機関などに橋渡しを行い高く実績を評価されました。

平成24年度は関東財務局管内で当金庫のほか横浜銀行と信州再生支援ネットワーク会議の3つの機関が受賞しました。都内金融機関は当金庫のみの受賞で大変名誉あることです。

■ひがしんの産学官連携

様々な地域支援・密着活動

全国初の国立大学と
信用金庫の産学連携

東京東信用金庫（ひがしん）は、地域社会や地域経済の活性が金庫自らの発展に繋がるものとの理念で、様々な地域支援・密着活動を提唱し実践してきました。

平成17年には、全国で初となる国立大学と信用金庫との産学連携の包括協定を東京海洋大学と締結、平成20年には江東区豊洲にキャンパスを新設した芝浦工業大学と、さらに翌年には千

葉商科大学とも産学連携の協定を結び様々な実践的活動を行っています。

ひがしんの取引先や地域内の企業から、世界でもトップレベル、日本でも屈指の海洋・土木・建築工学などの研究開発に取組む東京海洋大学と芝浦工業大学には技術系の相談を、千葉商科大学には経営などマーケティング系の

支援を依頼しています。

本部・本店がある墨田区とは、早稲田大学とも連携して『キラキラ橘』商店街活性化運動を行ってきました。また『すみだ産学官連携クラブ』設立当初からクラブに参画し、会員の中小企業者や早稲田大学などと協同し“マルチマイクロ発電機”や電気自動車



電気自動車“HOKUSAI”

「キラキラ橘」商店街
で活性化運動を展開

“HOKUSAI”の開発やプロモーションに関わってきました。

●
地域社会や地域経済の発展という基本理念はひがしんの取引先に限定されることではないとの考えから、平成20年度から始まった経済産業省の『地域力連携拠点事業』に公募し採択されました。全国で316拠点（うち金融機関は6機関）が認定され、ひがしんもそのうちのひとつとなりました。

拠点の名称を《首都圏東部地区地域力連携拠点》とし、ひがしんの営業地域を中心に国の施策支援や技術相談・経営相談などを行ってきました。その後、地域力連携拠点事業は中小企業ネットワーク強化事業となり、ひがしんの拠点名称も《首都圏東部地区中小企業応援センター》に変わりました。平成



ハロープラザでの相談風景

25年3月末でこの事業も終了しましたが、国費で支払われていた外部専門家4名の費用を4月からひがしんで負担し従来と同様の相談受付を行っています。このセンターでの相談件数は1

年間に約500件程度となっています。また、平成25年度下半期以降には国の新たな支援プラットフォーム事業が始まる予定になっています。



首都圏東部地区中小企業応援センター（両国：ひがしんハロープラザ）

■ひがしんの産学官連携

“深海探査ロボット江戸っ子1号”が話題に

様々な産学連携の 成果が 生まれています

平成18年3月から始まった東京海洋大学との技術相談は、芝浦工業大学も加わり、その後は中小企業応援センター内で技術相談として脈々と受け継がれてきました。この間には、様々な技術相談が行われてきました。この相談の中でもとりわけ、世間の注目を集めているのが“深海探査ロボット江戸っ子1号”です。地域力連携拠

点を開設して間もなく、ひがしんの支店にゴム会社の社長が来店し支店長に「東大阪の町工場がまいど1号を上げた。大阪がロケットなら東京下町の中小企業は深海探査艇を造りたい。地域力連携拠点に技術相談したい」から始まりました。普通だと空想科学小説だとかたづけられてしまいそうなものですが、ひがしんが事務局となり東京海洋大学と芝浦工業大学が加わり、その後海洋研究開発機構(JAMSTEC)のさらなる支援によって、平成24年秋には国からの助成金獲得までこぎつけました。海洋生物の映像撮影や深海の採泥などが開発の目的であることから海底資源という大きな括りでメディアを中心に関心が高まり、最近の海上実験ではテ



新江ノ島水族館での実験

レビ局や新聞社が数多く取材に同行しています。



“江戸っ子1号”の江ノ島沖での海上実験

また、ひがしんも実験の要所要所で自らが動画取材を行い、その画像を営業店80か所のデジタルサイネージで放映しています。また、NHKをはじめテレビ局へも当金庫取材班の画像を配給しています。平成24年7月には鈴木中小企業庁長官と高原資源エネルギー庁長官(いずれも当時)に説明を行い、また平成25年6月末には安倍総理大臣が江戸っ子1号の展示ブースに立ち寄るなど大きな注目を集めています。9月下旬には海洋研究開発機構(JAMSTEC)の大型調査船“かいよう”に江戸っ子1号を搭載して、房総沖200キロの日本海溝深海部8,000メートルの沈降・浮上実験を行う予定です。

◎

江戸っ子1号のほかにも様々な産学連携の成果が生まれています。大学と自動車部品製造メーカーが取組んだ“低コスト高精度極細パイプの製造法開発”や、同じく大学と工業機械製造会社が取組んだ“油圧成型機の高精度小型化・軽量化”、さらには“ペットボ

トルの静電気による分別法開発”など枚挙にいとまがありません。そのほかにも、技術力がある事業所などを毎年大学に紹介を行い大学の教職員が事業所を訪問し発注を行うなどの取組みもしています。



大学関係者が工場を視察



大学との共同開発現場打合せ

■ひがしんの情報発信

しんきん活動を“見える化”して

企業の活動は
知的資産の活用から

地域と密着した信用金庫の活動は、全国各地でさまざまに展開されています。地域金融機関として信用金庫が地域で果たしている役割や使命、具体的な活動などを解りやすく地域社会やお取引先、金庫職員にまで広く伝えるための情報発信力がますます強く求めら

れています。《首都圏東部地区中小企業応援センター》が地域の中小企業に対して行っている知的資産経営報告書(見える化)作成の取組みと同様に、私たちひがしんも、より一層“見える化”しなくてはいけないと痛感するところです。地域とともに信用金庫が存続・発展するためには、ステークホルダー(お取引先、職員など)にひがしんの優れた部分を知ってもらうことは大変重要なことであり、正確な財務諸表の開示に加え、非財務の情報(信用金庫が持つ知的資産の優位性)を伝えることが必要です。知的資産とは特許やブランド、ノウハ

ウなどの知的財産と同義ではなく、それらの一部を含み、さらに組織力や人材、技術、経営理念、顧客などとのネットワークなど財務諸表には表れてこない目に見えにくい経営資源の総称です。知的資産は企業の本当の価値・強みであり、企業競争力の源泉です。企業の活動は知的資産の活用なしには成り立ちません。

ひがしんが地域とともに存続していくためには、メガバンクなど他の金融機関との差別化を図り、競争優位に立つことが大切です。ここで私たちが取り組んでいる情報発信について、いくつかの例をあげてご案内いたします。



動画取材とデジタルサイネージ(電子看板)等への配給

各支店に設置されている金利表示ボード。以前の金利ボードは電球式で球切れが多くメンテナンスが煩雑であったことから、ひがしんでは全国的にも極めて早く、平成15年度から電球式金利ボードから漸次37インチプラズマディスプレイによる金利表示に変更を行いました。

プラズマディスプレイに替えることによって単なる金利表示から動画による金庫情報の発信が可能となりました。変更当初から、動画によって当金庫の地域密着活動をリアルにビジュアルとして紹介することをメインのコンセプト

トとして取組みました。この考えは今でも変化ありません。現在でもサイネージは“癒し系”の画像や“限定した各地域の天気”の画像を流すといった声を聞きますが、そのようなサイネージではあまり意味がありません。ひがしんでは大学との産学連携、区役所との連携、商店街活性化への金庫の取組みなど、一般のご来店客の方々かふだん聞きなれないものを解りやすく映像で採りあげています。効果は絶大です。編集機材・ハイビジョンカメラの購

入、スタジオと編集室の全面改装がなされ、平成20年からひがしん職員による動画取材と編集作業が始まりました。外注による動画制作のコストは非常に高いことから内製化が増えることによって大幅なコストパフォーマンス向上が図れています。現在では80%以上を内製しています。特に個性的な取引先などを約5分間で紹介する“企業紹介”は各店舗80か所で流れておりビジネスマッチングなどに成果を挙げています。



両国本部6階スタジオ内での動画制作



金庫の活動をタイムリーに全店舗のディスプレイで紹介

■ひがしんの情報発信

しんきん活動をご理解いただくために

コミュニティー誌 Good Smile の発刊

動画を新聞にしたのがコミュニティー誌“Good Smile”です。年間3刊を発行しています。ひがしんの商品宣伝を載せるのではなく商店街や個性的な取引先などを、Face to Face のしんきんならではの目線で紹介するコミュニティー誌を目指しています。

「紙」ではなく「誌」です。こちらも業者に丸投げはせず、全体の企画もひがしんが行い、現場取材には業者とともに職員が同行して取材を行っています。まずは『人を載せる』ことがとても大事なことです。本誌は店頭ほかに営業担当者がお客様への訪問時に配布することとしています。とかくネット化されて紙に親しむ機会が少なくなっているからこそ、Good Smile は大切なひがしんのツールとなっています。

●
コミュニティー誌“Good Smile”のほかに、“わいわい倶楽部通信”を年2回発行しています。

こちらは比較的年齢の高い方々を対象としています。この“わいわい倶楽部通信”で好評なのは毎号採りあげている《定点観測》です。昭和30年代から40年代頃にかけてのそれぞれの街や風景を、現在の場所と比較する写真コーナーです。昭和の時代の写真は図書館で探し、該当先は職員が取材し探し同じアングルで撮影してくるものです。そのほか観劇会やお客様の趣味などを紹介しています。すこしでも Face to Face が通じるよう一生懸命熱意をもって創っています。



女性の目線で お客様のお役に

平成24年7月、女性を中心とした部署がお客様サポート部の中にライブ

フットサルチーム フウガすみだを応援 (FUGA SUMIDA)

ひがしんは平成23年10月に墨田区からホームタウンスポーツチーム

ラン担当として新たに設置されました。女性4名で構成され年金、遺言信託や資産運用など、ご相談がしづらい・難しいといったものを中心にご相談を承るための担当です。ふだんお付き合いしている男性の営業職員では聞きづらいなどといったものを、女性の目線で親身にお伺いいたしますのでお気軽にご相談ください。

として正式に承認されたプロフットサルチーム“フウガすみだ (FUGA SUMIDA、Fリーグ準会員)”のメインスポンサーとなりました。フウガすみだは、墨田区総合体育館をホームとして活躍しているプロフットサルチームで、来年度からFリーグ昇格を予定しています。ひがしんと同じくプロフットサルチームも地域密着・



ライブプラン相談に女性担当が誕生

ホームタウン制をとっており、フウガすみだの活躍が私たち地域に大きな歓びと勇気を与えてくれます。今シーズンから、フウガすみだのユニフォームの前面にひがしんのロゴが輝きます。スポーツを通じた地域貢献活動にご期待ください。



フットサルチーム“フウガすみだ”のメインスポンサーとなりました

■ひがしんの〈4つの組織〉

ひがしんビジネスクラブ「オーロラ」

経営者の会として
多彩な行事を展開

ひがしんビジネスクラブ「オーロラ」は、平成4年7月に発会し、「企業経営に関する情報交換を通じて、個々の事業の発展に役立てる」ことを目的として、現在68支部1,602名の会員が、経営研究会、講演会、異業種交流会など、多彩な活動を展開しています。平成24年度は発会20周年を迎えることができました。主な活動として、毎年3月に開催する会員大会には、会員や会員の家族、従業員など1,000人を超える方々にご参

加いただいています。会員大会は第一部が講演会、第二部が懇親会という2部構成で、毎年話題の講師をお迎えする講演会は大好評をいただいています。懇親会は立食パーティー形式で生バンド演奏を楽しみながら会員同士の親睦を図る絶好の機会となっています。

また、会員と家族のイベント大会として観劇やコンサート鑑賞などの企画が多かったのですが、平成24年度は初めてスポーツ観戦「大相撲九月場所観戦」を企画しました。オーロラの名前入りの懸賞幕が登場し大いに盛り上がりました。その他、地区別交流会の開催や地域ごとにテーマを設定したセミナー活動にも積極的取り組んでいます。セミナーは毎年6地区に分けて行われており、延べ1,000名以上の会員の

方が参加されています。オーロラでは他に「ひがしんビジネスフェア」への協賛や、東日本大震災復興支援など幅広い活動を行っています。東京スカイツリー開業を記念してスカイツリー前「おしなり公園」にベンチ6基を社会貢献活動の一環として寄贈いたしました。また、オーロラ20周年記念行事として東京スカイツリー清掃ボランティアを行いました。平成4年の創設以来、異業種交流会やビジネスマッチングなどを主な目的としながら、さまざまな取り組みを行い有形無形の成果を上げています。

◆チャレンジ！ スモール・エクセレント



秋野 明
オーロラ会長

ひがしんビジネスクラブ「オーロラ」も平成4年に発足して昨年に20周年を迎え、本年は、支部数68支部・会員数1,602名の大きな組織となっております。オーロラが今日ありますのも、今日までの役員、支部長等の諸先輩方の、多大なるご貢献、ご協力の賜物と、ここに心より厚く御礼申し上げます。第9期を迎えるに当たり、オーロラの活動スローガンを「小さくても素晴らしいオーロラ活動」・「小さくても素晴らしい会員会社」を目指しまして、「チャレンジ！スモール・エクセレント」(Challenge! Small・Excellent) にさせて頂き、諸活動の指針とさせて頂

きました。この指針の基に、会員相互の情報交換と交流を通じて、その繋がりを研鑽により、企業力を培って頂き、新しいアイデア・技術・サービスを生み出し、素晴らしい未来へ発展される事を願って、オーロラが皆様の事業に少しでもお役に立てるよう努力させて頂き、本年度は、更なる支部活動の充実を図って参りたいと存じます。最後になりますが、皆様の変わらぬご協力とご支援を、本年度もよろしくお願い申し上げます。



ホテルニューオータワで開かれた20周年記念会員大会(平成25年3月)



会員大会のトークショーで女流書家の金澤翔子さんへ、大塚治子レインボー会長より花束贈呈



会員大会懇親会での田辺靖雄・九重佑三子夫妻によるハートフルライブ



名前入りの懸賞幕も登場し多に盛り上がった会員と家族のイベントとしての大相撲九月場所



清掃活動を実施



東京スカイツリー開業を記念してベンチを寄贈

■ひがしんのく4つの組織>

ひがしんわいわい倶楽部

年金受給者の健康で豊かな暮らしが願い

ひがしんわいわい倶楽部は、当金庫で年金をお受取りになっているお客様が、健康で豊かな楽しい暮らしを続けて下さることを願い、平成7年4月に誕生しました。

現在の会員は約5万人で、ひがしんの4つの組織の中では、最大規模となっています。

事業としては、全店から多数の方が参加する恒例の一泊旅行「ひがしんわいわいツアー」と「明治座観劇会」が2本の大きな柱となっています。

その他、健康介護相談付き団体傷害保険、交通事故見舞金制度の運営など、

高齢者の方のお役に立つよう多彩な事業を展開しています。

ひがしんわいわいツアーは、毎年2月から3月にかけて行われ、約3,000人の方々に参加いただいております。宴会時のショーやカラオケ大会、随員職員のパフォーマンスもわいわいツアーの名物となっています。

平成25年2月～3月のわいわいツアーは日本3名泉のひとつ「下呂温泉水明館に泊まる飛騨高山の旅」を実施しました。

飛騨高山の冬から初春のたたずまいと美人の湯として有名な水明館の秘湯を楽しみ、雪の飛騨路も忘れられない思い出となりました。

また、明治座観劇会は、会員の方に毎回一流の舞台を楽しんでいただいています。

平成25年7月のわいわい倶楽部明治座観劇会は「梅沢富美男・中村玉緒特

別公演」を楽しみました。第一部のお芝居、第二部の歌謡ショー、第三部の舞踊絵巻と舞台は大いに盛り上がりました。

お芝居では、人情豊かな江戸で巻き起こるシンデレラストーリーを、ユーモアを交えて楽しく演じ、中村玉緒との息もぴったりで、感動と笑いに包まれました。

第二部は梅沢富美男オンステージ。相変わらずの美声と爆笑トークで会場は最高潮に達しました。一息入れて、第三部は梅沢富美男が女形で登場。お客様も大満足の観劇会でした。



第15回ひがしんわいわいツアー実施(平成25年2月～3月、下呂温泉水明館に泊まる飛騨高山の旅)



下呂温泉・水明館



妻籠宿



参加者で満員の明治座観劇会



北島三郎特別公演(平成24年7月)



梅沢富美男・中村玉緒特別公演(平成25年7月)



◆皆さん一緒に人生を楽しみましょう



岡本 郁雄
わいわい倶楽部会長

現在、ひがしんわいわい倶楽部の会員は、約5万人となっています。

ひがしんの4つの組織の中でも最大規模となっています。

わいわい倶楽部の1年間の行事としては、1泊2日の温泉旅行があります。約三千人の会員の方々が和気あいあい楽しんで頂いています。

元気なお年寄りの方々が、歌に踊りにはしゃいでいらっしゃいます。また、名所、旧跡、神社仏閣などの参拝も楽しみの一つとなっています。

夏の明治座観劇会も定着し、舞台と客席が一緒になり笑顔があふれています。皆さん本当にパワーがあつて元気な方々ですね。楽しく笑顔で遊んでいると長生き致しますよ。是非ご参加ください。

■ひがしんの＜4つの組織＞

ひがしんレディースクラブ「レインボー」

講演会や
グルメツアーで
女性の社会参加を応援

ひがしんレディースクラブ レインボーは、平成20年9月、当金庫初の女性の会として発足しました。この会は、女性の方々の知識や教養を磨くとともに、健康に関する意識を高めることを目的として発足したものです。平成20年の発足時は、約200人程度の会員でしたが、現在は約800人の会員を擁するまでになっています。主な活動は、年1回の会員大会の開催と文化、教養、趣味などの講演会の開催、さらに日帰り旅行や宿泊を伴う懇親旅行などとなっております。

平成24年8月には東北復興支援第1弾として「スパリゾートハワイアンズと仙台七夕まつり2日間の旅」を60人の参加者と共に開催しました。このときは福島県のみまわり信用金庫の台(うてな)理事長にレインボーより義援金をお渡ししました。

9月には第4回会員大会を帝国ホテルで行いました。サプライズゲストでロンドンオリンピック競泳平泳ぎ200m銅メダリスト立石諒選手も駆けつけて



スパリゾートハワイアンズ

くれました。

平成25年1月には教養セミナーが開かれ、講演会に先立ち第3期役員のご紹介と第3期大塚治子会長の就任の挨拶がありました。女優でヘルスケアカウンセラーとして活躍中の石井苗子さんによる「素敵に元気になる方法～いつまでも美しく」と題しての講演会ではご家族の介護や健康に関するお話など興味深いお話しに引き込まれ、講演時間はあっという間に過ぎました。



大塚 治子
レインボー会長

◆女性の輪を広げるレインボー

ひがしんレディースクラブ レインボーが発足致しまして、早いもので今年の秋には5周年の会員大会を開催する予定となっております。講演会、講習会、見学会、一泊二日の旅行等、たくさんの活動がありました。一泊二日の旅行では、東北復興支援といたしまして、東北の方に行かせていただいております。女性が地域社会だけでなく、レインボーの行事に参加することで、多くの女性の方々とのお会いがあり、話をする機会にも恵まれ、楽しさと同時に大変勉強にもなります。ひ

がしんさんでは地域社会への貢献及び活性化に力を入れていますが、5年前にひがしんレディースクラブレインボーを作っていただき、男性だけでなく女性にも社会に出ていく機会をいただいた事は、大変素晴らしいことです。これからも、家庭を支え、会社を支えている女性達がレインボーの行事を心待ちにしているだけのように、なお一層充実した会にしたいと思います。

6月には第5回日帰りツアー「ホテルデザートbuffetと屋形船で美男(イケメン)芸者栄太朗とお座敷遊び」が開催され、3日間で総勢200人が参加しました。

普段はなかなか会う機会のない日本でただ一人の女形芸者、栄太朗さんのお座敷遊びに盛り上がり大盛況のうちに終了しました。



教養セミナーを開催(平成25年1月、上:大塚治子第3期会長の就任挨拶、下:講師の石井苗子さん)



サプライズゲストにロンドン五輪銅メダリストの立石諒選手



屋形船で女形芸者栄太朗さんとお座敷遊び



第5回日帰りツアーを実施(平成25年6月)

■ひがしんの＜4つの組織＞

ひがしん若手経営者の会「ラパン」

次世代を担う
若手経営者の会

ひがしん若手経営者の会「ラパン」は、平成20年12月、次世代を担う若手経営者の会として発足しました。この会は、若手経営者育成が地域発展の重要な要素になると考えて発足したもので、現在では260人の会員組織となっています。加入資格は45歳以下の若手経営者・後継者となっています。ひがしん若手経営者の会の愛称である「ラパン」は、フランス語でウサギを意味します。このウサギはラパンのマスコットマークでもあります。十二支の「卯」は日が昇る東を示し、また耳

の部分はビックリマークをイメージして、アクティブ感を持たせています。活動は年1回の会員大会のほか、6地区ごとの会員交流会や、実業セミナーなどを開催しております。特に異業種交流、情報交換、セミナーなどは、各会員の実際の仕事に直結したテーマで行われるだけに、身に付く活動となっています。参加者が、若手経営者ということもあ

り毎回の催し物では活発な議論が展開されます。また地区別交流会は、ひがしんの営業区域ごとに交流会を開催し、会員相互の親睦を図っております。このほか、ひがしんの営業地区にとどまらず、他の地域の経営者と交流会も開催されております。今後は、ラパン会員とのビジネスマッチング創出と販路拡大のサポートを目的とした交流会



第4回会員大会・講演会

◆パワーアップし地域を元気に



菊地 智美
ラパン会長

ラパンには、若手の経営者、後継者の会員さんが260名程入会して頂いております。私達若手経営者、後継者に必要なのは、この難しい経営環境の中で、自社を前へ前へと導く勇気と力を与えてくれる、同じ境遇に身を置く仲間なのではないかと思います。その仲間達と絆を深め、悩みを共有、一緒に知識を拡げ、地元や同業種のみならず、日本や世界、異業種へとネットワークを拡げて、共にビジネスを成功に導い

て行けるような機会を提供して行ける場所でありたいと活動しているのがこのラパンなのです。また、最近では女性の経営者、後継者の方々も少しずつですがご入会頂いております。今後、ラパンがまた違った雰囲気のもと、更にパワーアップしていくものと思われれます。自社はもちろん、他社も地域も元気にしていく活動をしてまいります。どうぞ、今後ともご期待下さい！

の開催などの企画を行ってまいります。平成25年からは、第3期がスタートし、新役員体制でさらなる飛躍を期することになりました。



実業セミナーを開催
(平成25年6月)



実業セミナーでの
グループ討議



墨田地区別交流会開催(平成25年5月)



北地区別交流会開催
(平成25年7月)

継続して被災地支援を実施

ボランティア活動や 義援金贈呈

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東日本一帯に甚大な被害をもたらしました。未曾有の被災状況のなかで、当金庫は被災地や被災された方々のために何か力になれないかとの思いから、震災直後より被災地に対して、いち早く炊き出し隊や瓦礫処理のボランティアを派遣するとともに、義援金や育英資金の支援など震災からの復興・復旧について積極的に取り組んでいます。平成24年度も、被災地のボランティアセンターと連携し、10月8日（月）～12日（金）の日程で、職員13名

が宮城県南三陸町での瓦礫撤去作業のボランティア活動を行った他、「ひがしんチャリティーゴルフ大会」による浄財金を、「いわての学び希望基金（岩手県）」、「東北大震災みやぎこども育英募金（宮城県）」、「東北大震災ふくしまこども寄付金（福島県）」へ寄贈しました。

また、ひがしんレディースクラブ「レインボー」においても「スパリゾートハワイアンズと仙台七夕まつり2日間の旅」を催行し、福島県のひまわり信用金庫をつうじて義援金を贈りました。今後も相互扶助による「共

生の精神」を大切に、被災地や被災者の皆様に対して、継続して支援活動を行ってまいります。

平成25年3月15日（金）東北財務局主催の「東北の復興にむけて」～地域金融機関の役割を考えるシンポジウム～に当金庫の澁谷理事長が招かれ、当金庫の取り組みについて講演させていただきました。

ひがしんは、これからも被災地、被災信用金庫に対し支援を続け、「しんきんの力」、「つなぐ力」を発揮してまいります。



炊き出しボランティア



当金庫の取り組みについて講演する澁谷理事長



ひがしんビジネスフェア

両国国技館で開催



(写真上)
「ひがしんビジネスフェア」テープカット
(写真中)
多くの来場者で賑わう「ひがしんビジネスフェア」会場
(写真下)
全国の信用金庫の紹介による企業も数多く出展

毎年11月、両国国技館で開催されるひがしんビジネスフェアは、毎回多くの来場者で賑わいます。東京を中心に、信用金庫のネットワークを活かした全国各地の物産品をはじめものづくりの技術などを紹介したブースが出展しています。今後も、お客様の大切な出会いの機会を提供できればと考えています。

